



photo by Kimimasa Mayama

「もっといいクルマ」への道

「トヨタ再出発」に向けて ～クルマづくりを通じて 社会に貢献するために

日頃より当社の活動に多大なるご支援をいただいておりますことに、まずもって、厚く御礼申し上げます。

また、トヨタ車・レクサス車の「品質」や「安全性」に関し、お客さま、株主をはじめとする皆さまには、いろいろとご心配をお掛けし、心よりお詫び申し上げます。

米国公聴会での対応をはじめ、国内外での説明会など、トヨタの品質への信頼感を守るため、関係する方々に支えられながら活動してまいりました。その間、多くの方々から私どもに対する叱咤・激励や応援の言葉をいただき、感謝の気持ちで一杯です。

この1年を振り返りますと、2009年6月の社長就任時に、「嵐の中の船出」と申しあげたとおり、大変厳しい経営環境の中で、一瞬たりとも気を抜くことができない1年でした。

F1撤退やゼネラルモーターズとの合併会社であるNUMMI (New United Motor Manufacturing Inc.) の生産停止など、数々の苦渋の選択をしてまいりました。しかし、こうした苦しい時期であっても、販売店や仕入先の皆さまが1台でも多くのクルマをお客さまにお届けしたいという気持ちでご尽力いただいたこと、

そして世界各地のトヨタの従業員が「1日でも早く健康体に戻りたい」という気持ちで一丸となって頑張ったこと、そして何よりも、世界中の700万人を超えるお客さまが新たにトヨタのクルマをご購入いただいたことに対し、心より感謝申し上げます。

皆さまのお陰を持ちまして、2010年3月期の連結ベースでの営業利益は1,475億円となりましたが、クルマの次の100年を占うこの時期に、いち早く黒字化できたことは、次の成長戦略を描く上で大変意義のあることだと思っております。私は、2010年度を「新しいトヨタの再出発の年」と位置付け、新たな成長戦略へと舵を切っていきたいと考えています。

成長戦略の柱の一つである次世代環境車の分野では、2010年5月に電気自動車開発におけるテスラモーターズとの提携を発表いたしました。同年春に米国を訪問した際、テスラモーターズの電気自動車に試乗させていただきましたが、その時の感想を一言で申しあげると、「未来の風を感じた」ということです。テスラモーターズの技術力、また、そうしたものを短期間で完成させるエネルギーを感じました。

100年に一度の技術の転換期には、トヨタのような大企業のやり方だけではなく、ベンチャー企業の「チャレンジ精神」や「意思決定のスピード」、「柔軟性」が必要であると思います。トヨタもかつては、「ベンチャー企業」として生まれ、成長してきました。そして、今再び、テスラ社の方々と一緒に仕事をする中で、その時の精神を全従業員が思い起こし、新たな未来に向けてチャレンジしていきたいとの思いを強くしております。

トヨタの創業以来の変わらぬ使命は、クルマづくりを通じてお客さまや社会に貢献することです。お客さまや社会の求めるものは時代とともに変化してまいります。私は、こうした時代の変化に応じて、絶えず変化していくことこそが「成長」だと考えており、私自身も、トヨタという会社も常に「成長を続けたい」と思っております。

そのためには、お客さま、株主、地域社会、販売店、仕入先、従業員など、全てのステークホルダーの皆さまから、「トヨタが成長し続けることは良いことだ」と応援していただくことが大切だと思います。

私は、単に規模を拡大し、世界で一番大きな会社になることのみ「成長」を追求するのではなく、お客さまや社会が求める「良品廉価」のクルマを1台ずつ「心」を込めて作り、世界中のお客さまにお届けするということを、従業員一人一人が徹底的に追求することによって「持続的成長」を図っていききたいと考えております。

当社を取り巻く環境は大変厳しい状況にありますが、トヨタに関わる全ての人々と「心」を一つにして、「もっといいクルマづくり」に努力してまいりますので、皆さまの一層のご支援をお願いいたします。

2010年7月

取締役社長 豊田章男